

第129回 経営協議会議事録

日 時 令和7年6月17日（火）14時00分～16時20分

場 所 和歌山大学南1号館（事務局棟）3階共通会議室

出席者 本山学長

北村委員、島委員、清水委員、関委員、築野委員、宮下委員、矢倉委員
添田、野村、松本、岩田、山形 各理事

（福田監事、内川監事、足立副学長、藤永副学長、山崎教育学部長、金川経
済学部長、中村システム工学部長、北村観光学部評議員、竹内社会インフ
ォマティクス学環長、満田戦略情報室長、南方副理事、中村副理事、阿部
教育機構副機構長、小河 Well-being 機構副機構長、小田企画課長、上續
企画課副課長、櫻井財務課長、中井研究・社会連携課長）

欠席者 松田委員

学長から、第127回（令和7年3月21日）及び第128回（メール審議）の議
事録について確認があった。

はじめに、北村委員から挨拶があった。また、各学部、基幹等より、令和6年度の
それぞれの取組成果等について説明があった。

議 題：

1. 第4期中期目標・中期計画に関する令和6年度自己点検・評価について
添田理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

2. 大学機関別認証評価に係る自己評価について
添田理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・評価のための評価になってはいけない。具体的な活動に評価結果をどう生
かすかが重要である。現在、国で認証評価見直しの議論が行われていると
ころだが、貴学としては、先ほど各学部、基幹等から説明があった取組を
積極的に進めていただきたい。

3. 令和6事業年度決算（案）について
松本理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

- ・教育学研究科（教職大学院）に欠員が12人出ているが、原因は何か。
- 教職大学院の学生には、現職の教員と学部から進学するいわゆるストレートマスターがある。現在、現職の教員のニーズは高いが、ストレートマスターは減っている。教師不足もあり、教職大学院は全国どこでも定員を満たすのに苦労しているが、国の方針もあり定員の緩和も困難な状況である。
- ・教職大学院の在り方そのものが需要に合っておらず、根本的に見直す必要がある。
- 制度設計当時は現職とストレートマスターを同じ場所で学ばせることとしていたが、現実には難しく、設計時の構想と現実が合わなくなっていると考えられる。
- ・教職大学院だけの問題ではなく、教育学部がどうあるべきかを考えるべきである。一步遅れた議論になっているのではないか。
- 国の制度に働きかけていくと共に、教育学部だけではなく、大学全体の問題として学内でも議論していきたい。

4. 令和8年度概算要求（案）について

松本理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

(主な質疑や意見)

- ・教職調整額引き上げの財源についてはどうなったのか。国に対して強く要望すべきである。
- 昨年同様国から教職調整額の補填はなかったので、補助金など、別の経費を取りにいく努力をしているところ。
- ・同窓会からの寄附なども活用すべきである。

以上